故　前会長　工学博士　大西英一君　略歴

大西英一君は明治 22 年(1889) 12 月 7 日名古屋市に生れ，県立愛知第一中学校を経て名古屋高等工業学校に進み土木工学を修め，45 年 (1912) 卒業，つづいて鉄道院に奉職，鉄道建設工事にたづさわっていたが，当時ようやく近代産業の根幹として大容量発電所建設の兆しをみせていた水力発電事業に着目せられ，大正 3 年(1914)鉄道院を退職，ただちに神通電力株＊式会社に入社，神通川建設所長に就任，同7年(1918)これを完成して矢作水力株式会社に移り，昭和 15 年(1940)にはその取締役に選任された。この間欧米を視察，わが国の水力技術の進歩改善に努めるとともに，矢作川水系の開発，天龍川泰阜発電所の建設等，当時すでに本州中部の電源開発に多大の功績を残された。

君は昭和 17 年(1942) 矢作水力株式会社を辞任と＊＊＊同時に，設立間もない日本発送電株式会社に入社，変転極りない情勢下の水力発電所に新なる第一歩を踏み入れ，しばらくは保守，建設の最高責任を果し，20 年(1945) 理事に選任され，戦後 22 年 (1947) には新井章治氏の後をうけて同社総裁の要職につかれ，未曽有の難関に遭遇していた電力界の要望を双肩にになわれることとなつた。この要職における君の活躍は真に刮目に値し，産業復興の基盤としての電源開発，熾烈をきわめた労働問題の処理，電気事業再編成への対策等，戦後最も困難にして，しかも打開せざるを得ない幾多の問題に直面し，世論注視のうちに身をもつて対処したことは真に偉業として偲ばれるものである。

しかも君はこの難事業の間にあつて，なお工学推進の熱意を常に保持し，水力試験所つづいては電力技術研究所を設置し，また自らは長年の研究成果の一端を「超高圧隧道と我国における湖沼と発電水力について」なる論文として提出，昭和 23 年 (1948) 工学博士の学位を授与され，水力発電工学に多大の寄与をされた。

君は昭和 25 年 (1950) 多難なりし日本発送電株式会社総裁を辞任されたが，その該博にして深い学識と経験は広く土木界の認めるところとなり，昭和 24 年から 2 ケ年間本会副会長，引続いて 26 年第 39 代会長に就任され，その運営に萬全を期し，特に本会の財政的基盤を確立せられた功績は，まことに顕著である。また電気事業界にあつては電力中央研究所経営の重責を担われることとなつた。また国際的には昭和 26 年 (1951) 第 4 回国際大ダム会議に日本代表として出席，彼我の技術交換の端緒を確立された。

君は寡黙にして責任感きわめて強く，また部下を愛し，後進をよく導き，研究所理事長として現場に見えるや，君を中心に真に微笑ましき談笑の花が咲いたものである。晩年は日本大学教授として多忙の一時をさいて教壇に立つことを楽しみとし，またここに心安き境地を見出していたようである。

君は生来きわめて頑健な体質ではあつたが，戦後の難関に処したためか，一昨年来次第に疲労の色濃く，昭和 30 年 (1955) もまさに暮れんとする 12 月 16 日遂に永眠するに至り，広く斯界に惜まれつつ 66 才の生涯を閉じた。

生前多年にわたる電気事業に対する功績により藍綬褒章を授与され，また病篤きに及んで従五位勲四等に叙せられ旭日小綬章を授けられた。真に君の光輝ある生涯を飾るものと云えよう。

本学会は君の葬儀に当り霊前に香華を供え，弔辞を捧呈したが，ここに重ねて哀悼の意を表する次第である。